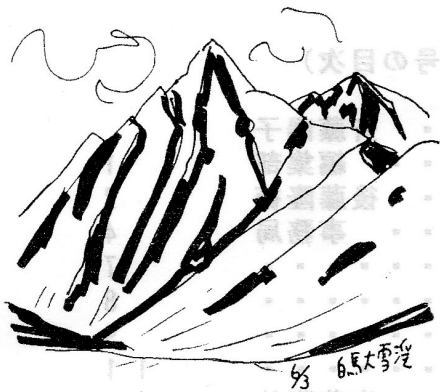


オペ室にロックは流れ

盲腸入院始末記



それは突然やって来た。連休明けの5月8日、仕事始めの矢先、猛烈な差し込みが右脇腹を襲う。油汗が流れ吐き気がする。「これはおかしい、何時もとちよっと違う」と感じた。

会社を辞し下土狩の病院で血液検査の結果「まず盲腸でしょう」とのこと。国立東静を紹介するのですぐ行くようにと指示される。

国立の主治医は松村邦洋そっくりの角医師。いろいろ検査し「どうします。やりますか？」

とのんびりしている。かねてから山での盲腸が心配だったので「やって下さい」と即答。病室で陰毛を若い看護婦に刷られる。なかなか手つきは良かった。手術着に着替え、なぜか「越中禪（ふんどし）」を付ける。

手術台に乗り手術室に向かう。ああ！いよいよだ。例のテレビのシーンが現実のものになった。下から仰ぐ廊下の人々の視線は同情と好奇が入り混じっていた。手術室のドアが開かれ眩しいライトが目飛び込む。と、その時私は自分の耳を疑った。ナ、ナント！手術室にはサザンの「TUNAMI」が流れているではないか。へー、ホー、最近の病院はこういうものか。びっくりするやら感心するやらである。ただ、それは患者（お客）のためか、スタッフのためかは分からなかった。

下半身麻酔を施し手術は始まった。執刀医は甲府の河野さん瓜ふたつの若い女性の深澤麻希医師。松村は反対側でサポート。30分過ぎた。盲腸は簡単、簡単と言っていた友の顔がチラつく。曲は横文字の激しいのに変わった。看護婦が腸を持つので気分が悪くなったら吐いてもイイと言う。

本当に気持ち悪くなり油汗が流れる。英語のロックが耳障りだ。頼んで止めてもらった。村松が「オレは別に曲が流れてなくてもイイヨ」とほざく。何だ患者（お客）のために流していたのではないのか。バカヤロー、どうせ流すならマイルスの「枯葉」でもやれ。頭にきてしまった。

まだかまだかで手術は1時間4分掛かった。随分長く感じた。

部屋に戻り明け方までウトウトした。麻酔が切れてきたらオチンチンがヤケに痛い。何と尿管に管を入れてあるではないか。痛いはずだ。看護婦を呼び取るように頼む。所が先生に聞いてみると言う。電話でやりとりの結果取ってくれたが、「あまりそういう方はいません」と厭味を言われた。後で聞いた話では、ここから細菌が入り尿道がおかしくなる場合もあるとのこと。短時間だからオムツでもイイのではないか。

とにかく腹が減ってまいった。結果的に3Kg瘦せた。盲腸を切るとそこを縛り腸の方に押し込む。腸側に突起が出来るので、暫く流動食しか摂取出来ない、とのこと。それにしてもあの病院食のマズさは何だ。同じ流動食でも、もうすこし工夫があるのではないか。隣のベッドのおジイさんが真っ赤に熟れたイチゴを食っていた。あれはナイよね。

元気になると猛烈に退屈になる。仕事はいっぱいあるが機材がないので何にも出来ない。一日がとても長い。月曜日入院したが、金曜日に松村に「土、日は家に帰ってもイイらぁ」と聞くと「この我が儘オヤジはしょうがネエなア」という顔をして、月曜の朝に抜糸に来ることを条件に認めた。結果土、日曜日に見舞いに来てくれた方を慌てさせてしまった。

月曜朝抜糸。「大きく切った(深澤医師の練習で?)」と言っ通り15針あった。仕事も溜まっていたので、そのまま午後から出勤、皆を驚かせた。昨日は病後初めての本格的登山で白馬岳に大雪渓から4時間45分で登り、1時間で滑った。おかげさまで、おおむね全快のようである。ナマステ。

[NO-58 00-06-04]

=その他のこと=

- 1、盲腸になる人の割合はどの位だろうか。1%位だろうか。以前読んだ海外遠征の話のなかに、「盲腸は取っていけ」があった。言葉の通じにくい発展途上国だったらなお大変。金もかかる。今回7万2千円払った。保険がなければこの10倍は掛かる。
- 2、今にしてみれば兆候はあった。一週間ほど前から右でなく、左の腰がずっと張っていた。たいした山も登ってないのに何故?だが、それが盲腸とは思いつけなかった。
- 3、前夜会員のKさんの新築祝いでしたたか飲んで喰った。それで「噴火」したみたい。
- 4、とにかく、春山後の「山でなく良かった」が実感。まだ、大切にしている方、呉々もご用心あれ。山だと労山の保険出る?兆候があったら、まず「血液検査」を薦める。2千円位で出来る。
- 5、聞けば「胆石」も急性で来るとのこと。経験在る方、また聞かせて下さい。